

令和6年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立男女共同参画センター中央館
施設所管課・担当	市民局ダイバーシティ推進室男女共同参画課（電話：06－6208－9156）
条例上の設置目的	男女共同参画社会の実現をめざす活動の拠点として、男女が社会の対等な構成員として社会のあらゆる分野における活動に参画し、個人として能力が発揮できるよう多面的な支援を行うことにより、男女共同参画社会の形成に寄与することを目的とする。
業務の概要	センター施設の管理・運営、男女共同参画社会の形成に関する情報の収集及び提供、男女共同参画社会の形成に関する講演会・講習会・研修会等の開催、男女共同参画に係る問題に関する相談、男女共同参画社会の形成に関する啓発、男女共同参画社会の形成に関する調査及び研究、その他市長が必要と認める事業
成果指標	貸室等利用率／貸室等利用者満足度／情報・図書コーナー利用者数／講座受講者数／講座受講者満足度／相談事業満足度／女性チャレンジ応援拠点利用者数／女性チャレンジ応援拠点利用者満足度
数値目標	70.0％以上／80％以上／9,000人以上／1,000人以上／80％以上／80％以上／1,200人以上／80％以上
指定管理者名	大阪市男女共同参画推進事業体 （代表者）一般財団法人大阪男女いきいき財団 （構成員）サントリーパブリシティサービス株式会社 （構成員）グローブシップ株式会社
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日
評価対象期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	貸室等利用率	貸室等利用者満足度	情報・図書コーナー利用者数	講座受講者数	講座受講者満足度
数値目標	70.0％以上	80.0％以上	9,000人以上	1,000人以上	80.0％以上
年度実績	65.4%	99.6%	9,136人	1,821人	98.2%
達成率	93.4%	124.5%	101.5%	182.1%	122.8%

成果指標	相談事業満足度	女性チャレンジ応援拠点利用者数	女性チャレンジ応援拠点利用者満足度
数値目標	80.0％以上	1,200人以上	80.0％以上
年度実績	98.8%	1,209人	99.0%
達成率	123.5%	100.8%	123.8%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	368,976人	401,091人	△ 32,115人
稼働率	65.4%	65.6%	△0.2%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	245,896,460	246,254,377	850,460	相談事業の変更に伴う増のため
	計画	245,046,000	245,191,000		
利用料金収入	実績	59,093,160	59,519,020	3,274,160	ホールの利用率等が計画を上回ったため
	計画	55,819,000	55,660,000		
その他収入 （自主事業収入）	実績	7,228,646	8,390,669	△ 5,234,354	
	計画	12,463,000	12,366,000		
合計	実績	312,218,266	314,164,066	△ 1,109,734	
	計画	313,328,000	313,217,000		

令和6年度 指定管理者年度評価シート

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	159,565,498	157,315,595	4,625,498	一部の項目について人員増のため
	計画	154,940,000	154,940,000		
物件費	実績	146,451,053	148,994,779	△ 606,947	光熱水費の減等のため
	計画	147,058,000	147,035,000		
その他事業費 （自主事業支出）	実績	3,645,268	4,067,716	△ 7,684,732	
	計画	11,330,000	11,242,000		
合計	実績	309,661,819	310,378,090	△ 3,666,181	
	計画	313,328,000	313,217,000		

4 管理運営状況の評価（1次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
貸室等利用率	93.4%	B	
貸室等利用者満足度	124.5%	S	
情報・図書コーナー利用者数	101.5%	B	
講座受講者数	182.1%	S	
講座受講者満足度	122.8%	S	
相談事業満足度	123.5%	S	
女性チャレンジ応援拠点利用者数	100.8%	B	
女性チャレンジ応援拠点利用者満足度	123.8%	S	

（2）管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
・ 電力およびガスの需給契約について、競争的手法により事業者を選定した。 ・ 電力需給契約に省エネ実践サービスを付加することで、継続した省エネの取組みを実践し、料金単価上昇時のリスク軽減とエネルギーコストの削減を図った。 ・ 省エネルギーを推進し光熱水費の縮減を図るため、デマンドコントローラーを活用し、電気使用量の抑制管理を行った。	B	・ 設備維持管理業務について、施設運営と保守業務の専門性を持つ事業体構成員の強みを活かして、緊急度・重要度の高い維持補修を効果的・効率的に実施している。

令和6年度 指定管理者年度評価シート

(3) 管理運営の履行状況

評価項目		評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上			
	施設の管理運営	S	・施設・備品等の維持管理に関し、損傷等に係る本市への報告にあたっては、その具体的な内容の明示とともに改善提案がなされている。 ・親子、障がいのある方及び高齢の方並びに外国人の利用者への配慮・対応がなされている。 ・貸室のコンビニ収納利用件数が、昨年度の利用件数より約2.7倍増えた。
	事業計画の実施状況	A	・情報・図書コーナーの利用者の拡大をめざし、セミナー等の学習事業やイベント開催に合わせて、情報・図書コーナーの利用方法とブックフェアの案内を情報図書担当者が事業実施会場に出向きPRを行い本への関心を高めるとともに、近隣親子カフェへの絵本の団体貸出など地域の利用者を広げる取組を行った結果、年々利用者数も増え、目標の利用者数9,000人（実績：9,136人）を達成することができた。 ・男女共同参画週間や国際女性デー、国際男性デーをはじめ、2025年大阪・関西万博の開催に合わせたセミナーを実施し、記念週間等の啓発を行った。 ・女性のチャレンジ応援拠点の利用人数は1,209人となり、前年度より17.6%の増加となった。個別相談・交流件数は昨年度より減少したが、新規メンバー利用者数が昨年度の約2倍に増加した。
	施設の有効利用	B	・情報・図書コーナーの利用促進及び新規利用者の獲得を目的として、中学生以上を対象に、利用のない会議室、研修室を自習室として開放した。利用時には、情報誌や事業案内、ブックリストを配布し、男女共同参画の啓発も行った。
社会的責任・市の施策との整合性		A	・「廃棄物の減量推進及び適正処理に関する計画」を作成届出し、館内ごみ箱の撤去、リサイクル資源の回収ボックスの設置などの継続的な取組を実施した。 ・大学・高等支援学校からインターンシップを受け入れ、講座事業等の運営補助業務に職員の指導のもと従事し、男女共同参画センターの存在、実施している各種事業について若い世代へ周知する機会となった。

5 利用者ニーズ・満足度等

【令和6年度実績】
スタッフ対応満足度： 99.8% 受講者満足度： 98.2%（男女共同参画セミナー）
【参考：令和5年度実績】
スタッフ対応満足度： 99.8% 受講者満足度： 98.4%（男女共同参画セミナー）

令和6年度 指定管理者年度評価シート

6 外部専門家意見

・新型コロナウイルス感染症の流行以降、会議等のオンライン化が急速に進み、貸室等のニーズに変化が生じていることから、利用施設のあり方等について今後新たな検証が必要ではないか。 ・相談員の安定的な確保のためには待遇面が重要であり、また、世代・性別の異なる多様な相談員がいることで様々な方のニーズに対応できるものとする。 ・ソーシャルネットワークサービスを有効に活用し、若者の利用促進に力を入れていることか感じられる。 ・避難訓練とコンサートを組み合わせ実施したことはとても興味深く、防災の観点から同様の取組みを広めていただきたい。 ・自主事業で有償ボランティアを育成する講座を行うことは、専門性をもって働くことに導けるという点で社会的意義があるので検討してもらいたい。 ・男女共同参画センターが実施するイベントは、クレオの認知度を上げるためのものと男女共同参画の理解を深めていただくものを切り分けて、それぞれ意識して実施されるべき。
--

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	A	・貸室利用率が数値目標を下回ったものの、残りのすべての項目が数値目標を上回った。
市費の縮減	B	・利用者サービスの向上に努めつつ、限られた予算の範囲内で多様な事業が実施できるよう経費を抑えながら効用を最大化する施設・事業運営が行われた。 ・物価高騰が続いているものの、今後も経費削減に努めるとともに、利用料金を中心とした収入の確保に努めていただきたい。
管理運営の履行状況	A	・利用者や受講者の要望を把握し、数値目標の達成に向けて課題を分析し、引き続き利用促進に努められたい。 ・男女共同参画施策の理解が広がるよう、引き続き年齢層等に応じた様々な広報媒体を活用・展開されたい。 ・男女共同参画センター各館と連携し、各館で事業のすみ分けを行うなど、幅広い分野をカバーして男女共同参画施策を展開されたい。 ・イベント等の開催にあたっては、参加者数や施設認知度の向上の観点と、男女共同参画の理解促進の観点を切り分けて、それぞれ意識的に企画・実施されたい。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	・令和5年度に引き続き、男女共同参画センター各館の統轄的役割を果たすとともに、令和3年3月に策定した「大阪市男女きらめき計画」の趣旨・目的を踏まえた適切な管理運営が行われていると評価できる。 ・引き続き、基幹的機能を果たす中央館として、5館全体での情報共有や事業の効率化を先導する役割を担っていただきたい。